

# 宮 城 県 の 経 済 動 向

平成30年第4四半期

(10月～12月期)

# I 本県の経済概況

## 平成 30 年第 4 四半期（10 月～12 月期）の宮城県経済の概要

経済活動は概ね高水準で推移しており、基調としては緩やかに回復しているものの、このところ弱い動きもみられる。

- ・生産：横ばい傾向の動きとなっている。
- ・住宅投資：高水準で推移しているものの、減少の動きとなっている。
- ・公共投資：高水準で推移しているものの、減少の動きとなっている。
- ・個人消費：弱含みで推移しているものの、一部に持ち直しの動きとなっている。
- ・雇用：高水準ながら足踏みがみられる。
- ・企業倒産：増加の兆しが見られる。

### ○個別指標の動き（概要）

#### 【生産】

鉱工業生産指数（H27=100）は、前期比が4期ぶりの上昇。前年同期比は2期連続の低下。

#### 【住宅投資】

新設住宅着工戸数は、前年同期比が全体で5期ぶりの増加。

貸家は5期ぶりの増加。

分譲住宅は3期ぶりの増加。

持家は11期連続の減少。

#### 【公共投資】

公共工事請負金額は、前年同期比が全体で2期連続の減少。

その他<sup>\*1</sup>は2期連続の減少。

県は2期連続の減少。

国は2期連続の減少。

市町村は2期ぶりの減少。

※1…独立行政法人等，地方公社，その他

#### 【個人消費】（百貨店・スーパー等，自動車，物価）

##### 《百貨店・スーパー，コンビニエンスストア，専門量販店》

百貨店・スーパー販売額は、全店舗比較で前年同期比が2期連続の増加。既存店比較は11期連続の減少。

コンビニエンスストア販売額は2期ぶりの減少。

家電大型専門店販売額は3期連続の減少。

ドラッグストア販売額は11期連続の増加。

ホームセンター販売額は3期連続の減少。

百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア，専門量販店販売額計（参考）は前年同期と同水準。

#### 《乗用車》

乗用車新車登録及び届出台数（普通，小型，軽自動車の合計）は、前年同期比が5期ぶりの増加。

普通車は3期連続の増加。

小型車は5期ぶりの増加。

軽自動車は2期ぶりの増加。

#### 《物価》

仙台市消費者物価指数（H27=100）のうち生鮮食品を除く総合指数は、前期比が3期連続の上昇，前年同期比は8期連続の上昇。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は前期比が2期ぶりの上昇，前年同期比は12期連続の上昇。

総合指数は前期比が2期連続の上昇，前年同期比は9期連続の上昇。

#### 【雇用】

求人倍率は、前期差で有効が前期と同水準。新規が2期ぶりの上昇。

所定外労働時間（製造業，事業所規模30人以上）は、前年同期比（指数・H27=100）で4期連続の低下。

実質賃金指数（製造業，事業所規模30人以上，H27=100）は、前年同期比で4期連続の低下。

雇用保険受給者実人員は前年同期比が21期連続の減少。

#### 【企業倒産】

企業倒産は、前年同期比が件数で4期ぶりの減少。負債総額は3期ぶりの減少。

大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

※2…下線部は前期からの主な変更箇所。

## II 主な指標の動き

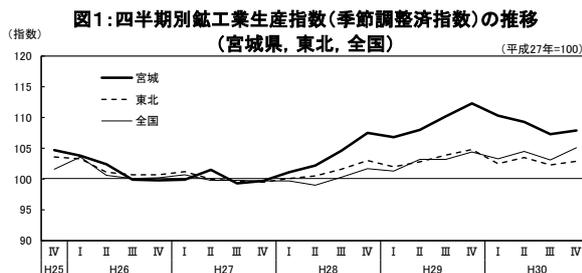
### 1 生産

#### ○ 鉱工業生産指数

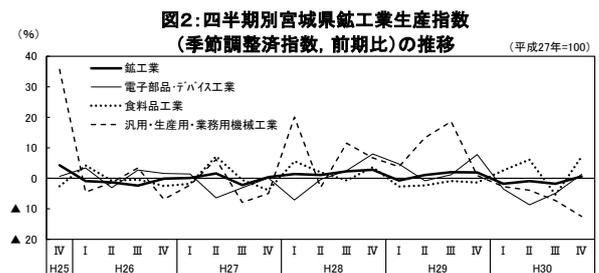
平成30年第4四半期（10月～12月期）の鉱工業生産指数（季節調整済）は107.9（平成27年=100）で、前期比が0.6%の上昇となり、4期ぶりの上昇となった（図1、図2）。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、食料品工業は前月比が7.1%の上昇となり、2期ぶりの上昇となった。電子部品・デバイス工業は前期比が1.3%の上昇となり、4期ぶりの上昇となった。汎用・生産用・業務用機械工業は前期比が12.5%の低下となり、4期連続の低下となった。（図2）。

前年同期比（原指数での比較）では3.8%の低下となり、2期連続の低下となった。



（資料：宮城県統計課）



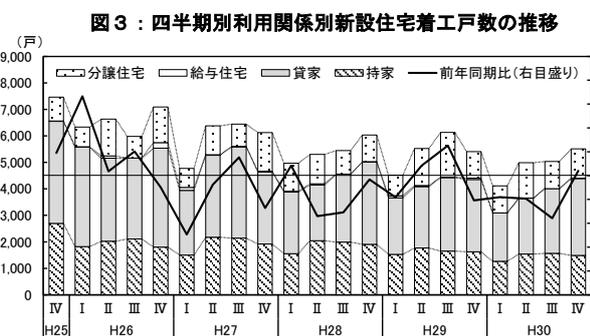
（資料：宮城県統計課）

### 2 住宅投資

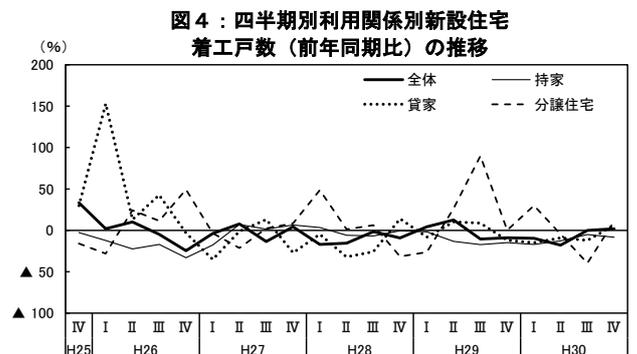
#### ○ 新設住宅着工戸数

平成30年第4四半期（10月～12月期）の新設住宅着工戸数は5,511戸で前年同期比が2.0%の増加となり、5期ぶりの増加となった（図3）。

利用関係別にみると、貸家（建築主が賃貸する目的で建築するもの）は前年同期比が6.3%の増加となり、5期ぶりの増加となった。分譲住宅（建売または分譲の目的で建築するもの）は前年同期比が11.0%の増加となり、3期ぶりの増加となった。持家（建築主が自分で居住する目的で建築するもの）は前年同期比8.4%の減少となり、11期連続の減少となった（図4）。



（資料：国土交通省）



（資料：国土交通省）

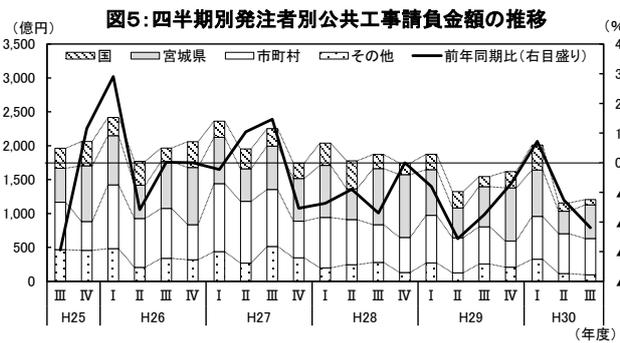
### 3 公共投資

#### ○ 公共工事請負金額

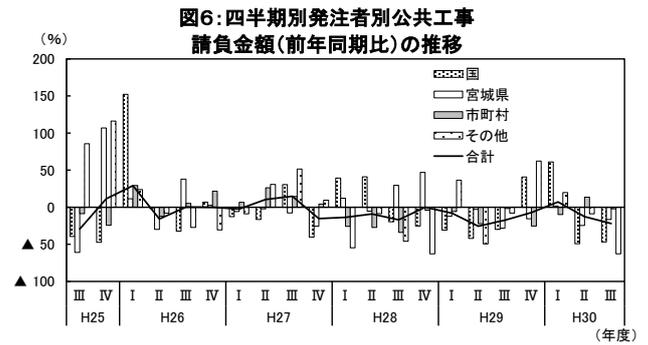
平成30年度第3四半期（10月～12月期）の公共工事請負金額は1,206億円で、前年同期比が21.9%の減少となり、2期連続の減少となった（図5）。

発注者別にみると、その他（独立行政法人等、地方公社、その他）は前年同月比が62.8%の減少となり2期連続の低下となった。県は前年同期比が16.4%の減少となり2期連続の減少となった。国は前年同期比が46.7%の減少となり2期連続の減少となった。市町村は前年同期比が2.1%の減少となり2期ぶりの減少となった（図6）。

※ 公共工事請負金額は、年度をベースにしているため、動向や資料は年度を基準としています。



（資料：東日本建設業保証（株））



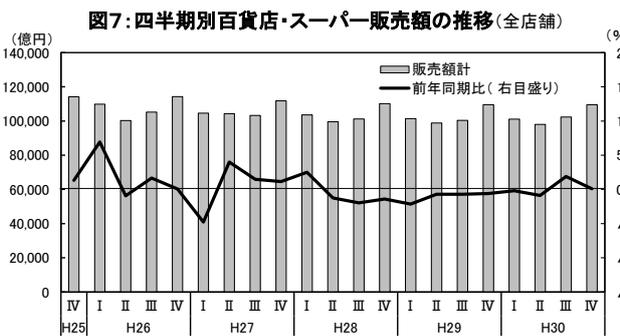
（資料：東日本建設業保証（株））

### 4 個人消費

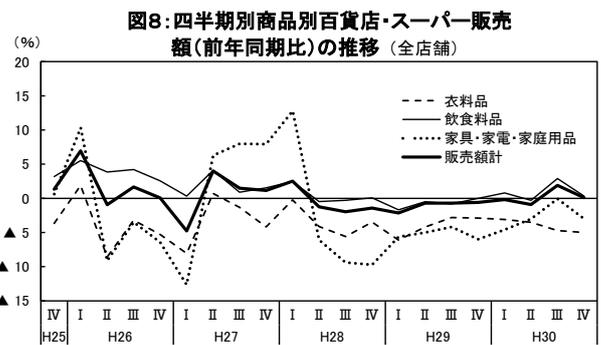
#### （1）百貨店・スーパー販売額

平成30年第4四半期（10月～12月期）の百貨店・スーパー販売額は1,095億8,100万円で、全店舗比較の前年同期比は0.1%の増加となり、2期連続の増加となった（図7）。既存店比較の前年同期比は2.6%の減少となり、11期連続の減少となった。

商品別にみると、その他商品（医薬品、化粧品、洗剤、書籍等）は前年同期比（全店舗比較）が3.7%の増加となり、2期連続の増加となった。飲食料品は前年同期比（同）が0.3%の増加となり、2期連続の増加となった。身の回り品は前年同期比（同）が1.0%の増加となり、4期連続の増加となった。家具・家電・家庭用品は前年同期比（同）が3.0%の減少となり、11期連続の減少となった。衣料品は前年同期比（同）が5.0%の減少となり、14期連続の減少となった（図8）。



（資料：東北経済産業局）

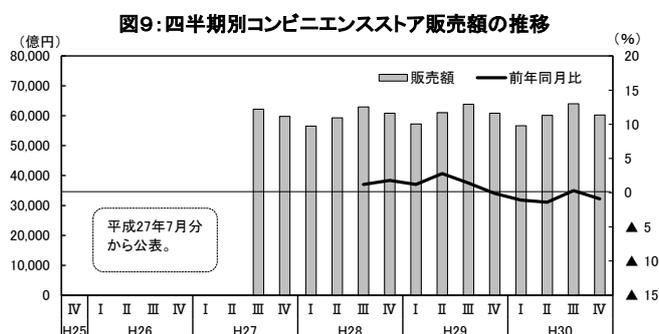


（資料：東北経済産業局）

※ 平成27年第3四半期分から平成28年第2四半期分までは、前年同期値をリンク係数で補正（14頁参照）

## (2) コンビニエンスストア販売額

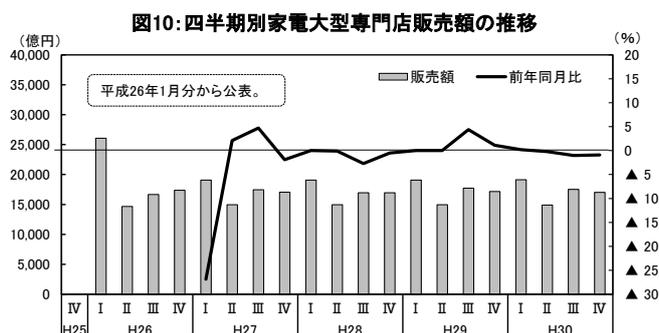
平成30年第4四半期（10月～12月期）のコンビニエンスストア販売額は602億5,200万円で、前年同期比は0.9%の減少となり、2期ぶりの減少となった（図9）。



(資料：東北経済産業局)

## (3) 家電大型専門店販売額

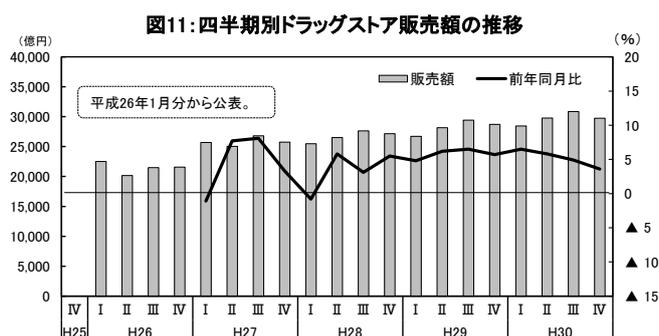
平成30年第4四半期（10月～12月期）の家電大型専門店販売額は170億1,300万円で、前年同期比は0.9%の減少となり、3期連続の減少となった（図10）。



(資料：東北経済産業局)

## (4) ドラッグストア販売額

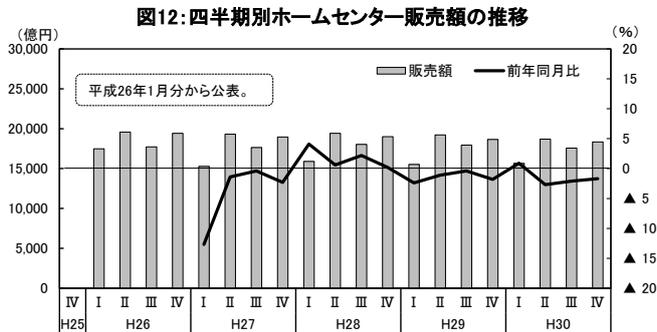
平成30年第4四半期（10月～12月期）のドラッグストア販売額は297億5,100万円で、前年同期比は3.6%の増加となり、11期連続の増加となった（図11）。



(資料：東北経済産業局)

## (5) ホームセンター販売額

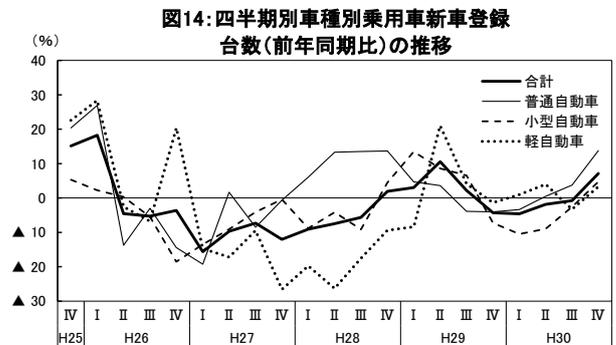
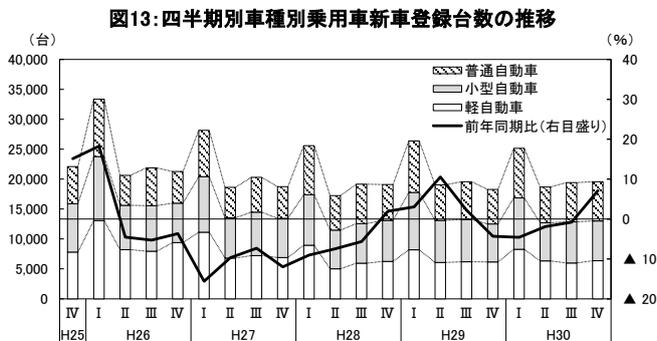
平成30年第4四半期（10月～12月期）のホームセンター販売額は183億3,900万円で、前年同期比は1.7%の減少となり、3期連続の減少となった（図12）。



## (6) 乗用車新車登録及び届出台数

平成30年第4四半期（10月～12月期）の軽自動車新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万9,567台で、前年同期比が7.1%の増加となり、5期ぶりの増加となった（図13）。

車種別にみると、普通車は前年同期比が13.8%の増加となり、3期連続の増加となった。小型車は前年同期比が4.8%の増加となり、5期ぶりの増加となった。軽自動車は前年同期比が3.3%の増加となり、2期ぶりの増加となった（図14）。

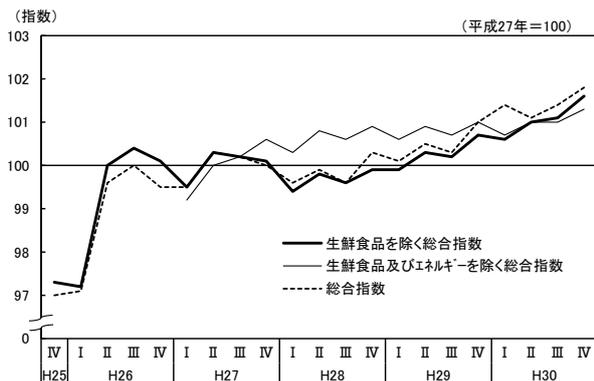


## (7) 仙台市消費者物価指数

平成30年第4四半期(10月～12月期)の仙台市消費者物価指数(平成27年=100)は、生鮮食品を除く総合指数は101.6で、前期比が0.5%の上昇となり、3期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.3で、前期比が0.3%の上昇となり、2期ぶりの上昇となった。総合指数は101.8で、前期比が0.4%の上昇となり、2期連続の上昇となった(図15)。

前年同期比では、生鮮食品を除く総合指数は0.9%の上昇となり、8期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は0.3%の上昇となり、12期連続の上昇となった。総合指数は0.8%の上昇となり、9期連続の上昇となった。

図15: 四半期別仙台市消費者物価指数の推移



(資料: 宮城県統計課)

※ 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は平成27年1月分より公表(14頁参照)。

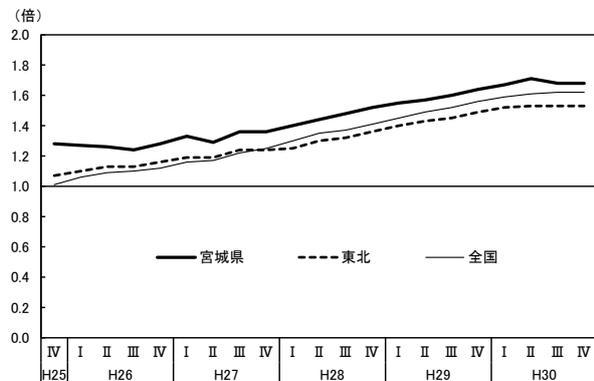
## 5 雇用

### (1) 求人倍率

平成30年第4四半期(10月～12月期)の有効求人倍率(季節調整値, 10月～12月平均値)は1.68倍で前期と同水準となった(図16)。

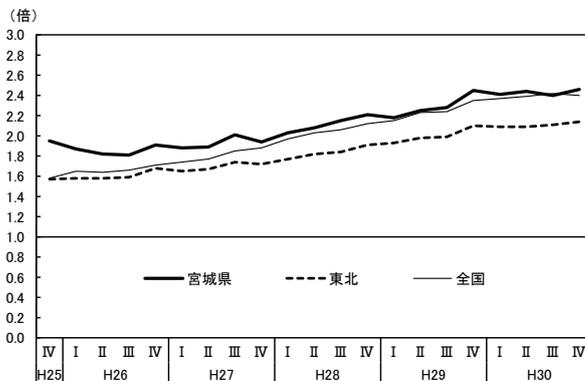
新規求人倍率(季節調整値, 10月～12月平均値)は2.46倍で前期差は、0.06ポイント上昇し、2期ぶりの上昇となった(図17)。

図16: 四半期別有効求人倍率(季節調整値)の推移



(資料: 宮城労働局)

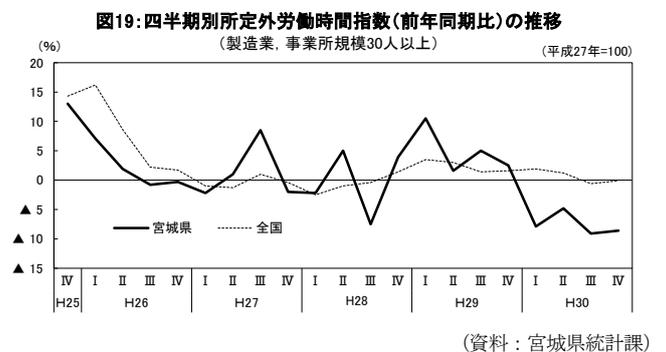
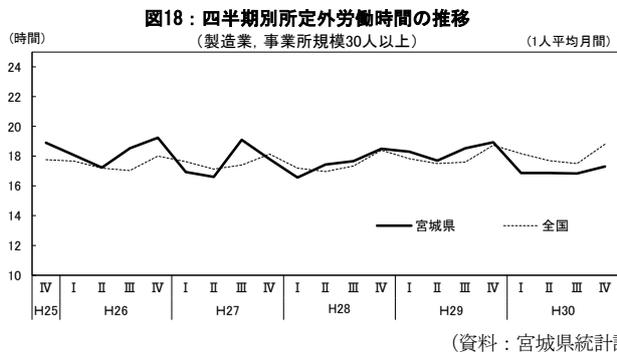
図17: 四半期別新規求人倍率(季節調整値)の推移



(資料: 宮城労働局)

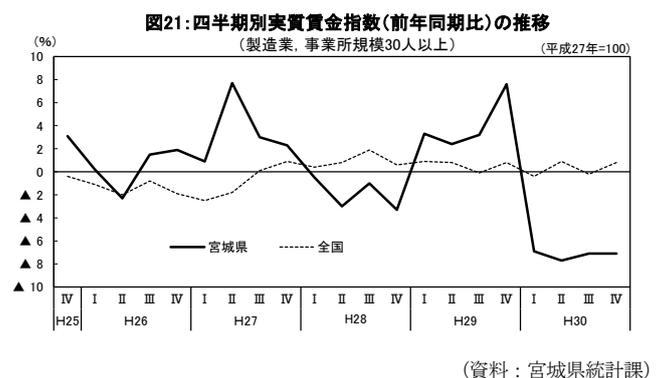
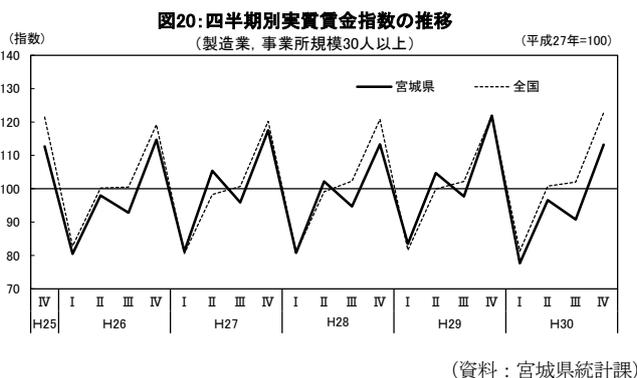
## (2) 所定外労働時間

平成30年第4四半期(10月～12月期)の所定外労働時間(製造業,事業所規模30人以上,1人平均月間)は17.3時間で(図18),前年同期比(指数,平成27年=100)が8.6%の低下となり,4期連続の低下となった(図19)。



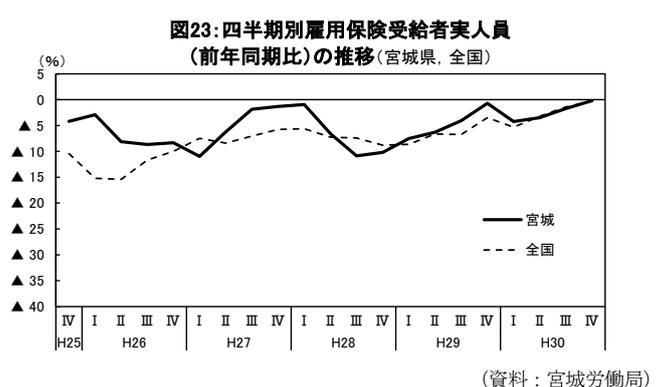
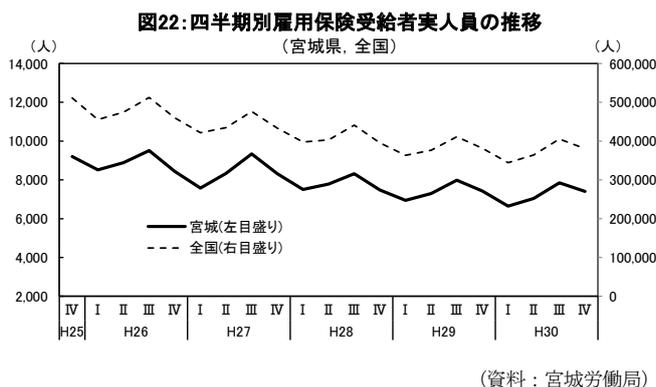
## (3) 実質賃金指数

平成30年第4四半期(10月～12月期)の実質賃金指数(製造業,平成27年=100,事業所規模30人以上)は113.2で(図20),前年同期比が7.1%の低下となり,4期連続の低下となった(図21)。



## (4) 雇用保険受給者実人員

平成30年第4四半期(10月～12月期)の宮城県の雇用保険受給者実人員は7,406人で(図22),前年同期比が0.2%の減少となり,21期連続の減少となった(図23)。



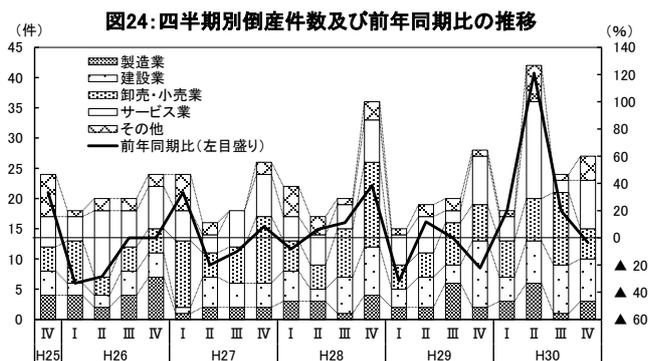
## 6 企業倒産

平成30年第4四半期（10月～12月期）の宮城県内の企業倒産（負債総額1千万以上）の件数は27件で、前年同期比が3.6%の減少となり、4期ぶりの減少となった（図24）。

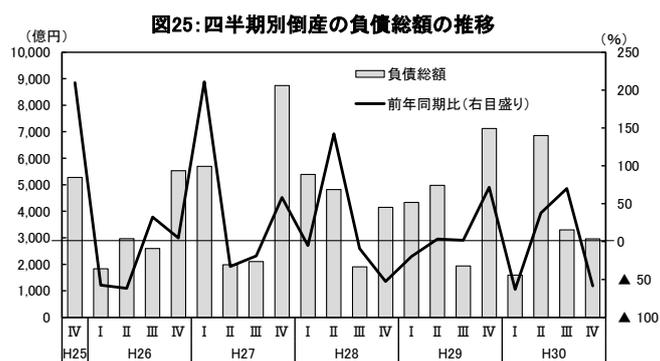
負債総額は30億円で、前年同期比が58.5%の減少となり、3期ぶりの減少となった（図25）。

これらのうちの不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ（赤字累積））の件数は17件で、前年同期比が21.4%の増加となり、4期連続の増加となった。件数の構成比は63.0%で、前年同期より13.0ポイントの上昇となった。

大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。



(資料：(株)東京商工リサーチ)



(資料：(株)東京商工リサーチ)